

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1174200384		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホームなごみの家		
所在地	埼玉県児玉郡美里町大字3198-2		
自己評価作成日	令和5年10月24日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、見晴らしの良い小高い丘の上にあり、四季の花、緑の木々に囲まれています。公園のような敷地で、散歩・外気浴、ガーデニング等を楽しむことができます。開設は2000年であり、介護保険制度と共に歩んで参りました。「利用者様の心に寄り添い、和気あいあいとした和やかな生活を支援いたします」を理念とし、ご家族様の思い、利用者様のご希望を受け止めたご支援を職員一同で実践しております。また看護師でもある管理者を中心に、健康で安全な暮らしの提供を目指しております。そして入所された利用者様とのご縁を大切に思い、未永く生活して頂きたく重度化・看取り支援も対応させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ・職員は、常に自らの気持ちにゆとりを持つことを心掛け、利用者1人ひとりの思いに寄り添い、出来ることは行っていたことで1人ひとりに生きがいを持っていただき、自然に恵まれた環境の中で、和気あいあいとして、和やかな生活を送っていただくための支援が行われている。
- ・運営推進会議は、多方面の参加を得て対面での開催となり、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みに関する報告やコロナやインフルエンザの感染予防、災害対策、外出等について活発な意見や情報の交換が行われており、詳細な議事録も作られ、運営に活かされている
- ・目標達成計画については、消防署の協力を得て地震と夜間の火災を想定した年2回の避難訓練が実施され、新人職員は全員参加できるようシフトを調整し、初期消火や通報、避難誘導の訓練が行われており、地元との災害時相互援助協定も結ばれていることから、目的達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	なごみの家の理念、法人の理念を日々各々が共有確認し、ご支援に繋げるよう心掛けています。	職員は、常に自らの気持ちにゆとりを持つことを心掛け、利用者1人ひとりの思いに寄り添い、出来ることは行っていただくことで生きがいを持っていただき、自然に恵まれた環境の中で、和気あいあいとして、和やかな生活を送っていただくための支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症の流行で、利用者様との交流は自粛されていますが、職員は、年二回の清掃活動に参加し、地域の方との繋がりを大切にすることを、心掛けています。	外出の制限が残る中、自然に恵まれた広大な庭園の散歩で四季の花木を楽しむことや周辺のドライブが行われ、住み慣れた地域の空気を感じてもらうことで地域との繋がりを感じてもらえるように努められている。職員だけであるが、清掃活動の「クリーン美里」に参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人、居宅介護支援事業所を通じて介護の相談を受け入れられる体制を取っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催しています。そこで出された意見や質問について話し合い、サービスに反映しています。	運営推進会議は多方面の参加を得て対面での開催となり、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みに関する報告や質疑応答、コロナやインフルエンザを含めた感染予防などの情報交換が行われ、日々の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や、毎月発行するお便りの交換を行っています。また、地域での感染症の動向やワクチンの接種状況、検診等について、わからない事は質問し、利用者様の健康管理に役立てています。	報告・連絡・相談などでは適切な回答や提案をいただくと共に、運営推進会議にも参加をいただくなど、適切な協力関係が構築されている。ワクチンの接種に前向きでない方の相談なども行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束適正化に関する指針を基に取り組みんでいます。玄関の施錠等、利用者様の身の安全を守る必要がある場合に、ご家族の理解を得て行うこともあります。	法人の身体拘束適正化の指針に基づき、身体拘束廃止委員会が3か月に1回、関連の研修が年2回行われ、身体拘束の弊害等の理解を進められ、身体拘束を必要としない支援に繋がられている。また、併せて、慣れや無意識で発する言葉使いにも注意が払われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の虐待防止のための指針を基に取り組み、日頃から利用者様の状態には気を配っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、厚生労働省、社会福祉協議会等のホームページを閲覧し活用できるよう、心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い納得していただいたことを確認した上で、契約を行っています。また管理者が窓口となり、ご家族の相談を随時行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族のご意見、ご不満、苦情などは管理者が伺ったり、職員を通じての報告もありますが、速やかに対応するよう心掛けています。また運営推進会議で、管理者、ご家族等で話し合い運営に反映されています。	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは面会や運営推進会議などの来訪時に聞き取りをされている。汲み取られた内容は管理者会議等で検討され、日々のサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議(ケア会議を兼ねる)にて行っています。	月1回、会議前に検討事項をメモとして事前提出する方式の職員会議が行われ、職員の意見やアイデア等が話し合われている。また、感染、事故防止等の委員会も毎月あり、職員会議の内容と共に、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接、目標管理シートを使用し、行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外の研修に積極的に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート外部研修や、施設見学を通して行っております。施設見学におきましては、感染症予防対策として、利用者様と接触する可能性のある場所は様子がわかるよう写真を用意し説明させていただきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の居宅介護支援事業所が窓口になっていますが、なごみの家に入居が決まった時点で必要に応じ訪問、電話等で連絡を取り不安が取り除けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、家族様の視点に立ち、介護サービス等について、説明させていただきよう心掛けております。その際には、専門用語を避け分かり易い言葉で説明させていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がその時、一番必要としているサービスを見立て、介護保険以外にサービスである医療、公共事業、ボランティアなどの社会資源の利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒に干したり、畳んだりして頂いています。また不穏な状況の利用者様の話し相手をして下さる方もいらっしゃいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が、作った工作、習字、お写真をご家族にプレゼントさせていただき、喜ばれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手指の消毒、マスクの着用、換気等、感染予防対策を十分図った上で面会をして頂いています。また、友人等に手紙を希望される方には、文具の購入や投函等のご支援を行っています。	感染予防対策を十分に取り、家族3人までの制限で玄関での面会が行われている。また、手紙や電話の取次や別ユニットに入所中の旧友との再開のサポートを行うなど、馴染みの関係継続のための支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のそれぞれの好みのレクリエーションを考え、皆様一人々が主役になれるよう配慮をしています。その中で利用者様同士支えあっている関係ができています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事や相談があれば、常時対応しています。また退所された利用者様のご家族に近況などを手紙や電話でお伺いしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方のご意向に努め、介護支援計画に反映させています。	日頃のかかわりの中で、利用者の本音が聴けるように話しかけ、傾聴し、コミュニケーションが困難な方は、表情やしぐさ、癖などをよく観察し、利用者が何か我慢をしていないかなども見極め、思いや意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、話を伺い、情報収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で利用者の状況を把握しケース記録に記入することで、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見を伺い希望に合わせて検討し、ケア会議等で職員の意見を取り込み介護計画を立てています。	ケアマネジャーを中心に3カ月に1回全職員でモニタリングが行われ、日頃の介護記録も参考に利用者、家族の意向も聴きとり、医師、看護師の意見も得て、できる事や好みのことが継続でき、その人らしさを大切に、介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づいたことを記入し情報を共有します。新たに検討したい事がある場合はケア会議等で話し合いより良い支援につなげるように心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で提供できるサービスを必要に応じて利用し、ご本人、ご家族の要望に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署との避難訓練、図書館で借りた紙芝居や絵本の読み聞かせ等を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に提携している協力医療機関の受診となりますが、希望、意向があればそれに従い尊重します。必要に応じ、専門医による受診に対しても支援しています。	入居時に医療機関の選択の説明がなされ、通常は訪問診療がある協力医療機関の受診が行われている。専門医の受診は家族対応とされ、医師への情報提供が行われると共に緊急時は職員が付き添うことで、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師に、気づいた事や変わった様子を伝え、日常の健康管理を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口になり、こまめに医師と連携を取っています。その内容は速やかにご家族に伝えたり、またご家族も同席出来るよう調整を行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期の在り方、事業所でできる事等を説明し、ご意向を伺いますが、確定ではなく利用者様の状況が変わること毎に説明させていただき事をお伝えします。その際には、ご本人・ご家族様のお気持ちを基に職員、主治医、ケアマネジャーと協力して支援に取り組めます。	入居時に終末期に事業所で出来ることを説明され、重篤に至った場合は、管理者、主治医、ケアマネジャー、職員が連携して対応にあたり、利用者家族との話し合いを重ね、看取りを含む適切な支援の選択が行われている。また、その後の振り返りも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時における対応研修を看護師により実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練、通報訓練、火災訓練を実施しています。また地元16区と災害時相互援助協定書を締結しています。また、新規入職者は訓練に参加出来るよう勤務を調整します。	消防署の協力を得て地震と夜間の火災を想定した年2回の避難訓練が実施され、新人職員は全員参加できるようにソフトを調整し、初期消火や通報、避難誘導の訓練が行われている。非常時の備蓄や機材の準備も行われ、地元との災害時相互援助協定も結ばれている。	年2回の避難訓練が実施され、地元との「災害時相互援助協定」も結ばれています。災害時は想定外の事態が生じることも考えられます。どのような場合でも必要な行動がとれるように、訓練の継続が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれに適した言葉かけ、守秘義務の厳守に努めております。個人所法は鍵のかかる場所に保管しています。	利用者が他人に知られたくないことや見られたくないことに対しては、言葉使いや声の大きさ等に注意が払われ、職員間で話す時にはイニシャルが使われるなどの配慮がなされている。また、個人情報に関わる資料類は、施錠できる場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様をご自分の意見を表現できるように職員として、気を配りながら接します。また利用者様に選択して頂く方法も取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムを尊重し、その方のペースに合わせ支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から、着用していたお気に入りの洋服をお召しになる方、職員に選んでもらいたいとおっしゃる方など、ご希望に沿って支援させて頂いています。白髪染めなどご希望があれば行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望は日常生活から拾い上げたりしながら提供しています。好まない食材の場合は栄養素を考えながら他の食品と変えることもあります。食後、テーブルやお盆拭きを手伝っていただく事もあります。	法人の管理栄養士により、メニュー作りと食材の手配が行われ、職員の調理による手作りの料理が提供されている。また、行事食や季節食に加えて、誕生日には本人の希望による献立もあり、レクリエーションを兼ねたおやつ作りも行われるなど、多彩な食を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立を基に栄養バランスを考えた食事を提供しています。また月に一度栄養スクリーニング・アセスメントを受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夕食後の義歯の洗浄・消毒を毎日行っています。また希望された方は週に一度、訪問歯科医による口腔衛生指導、治療を受けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録に、排泄の回数を記録しています。随時のトイレ誘導を行い失禁の回数を減らしております。	立位の取れる方は、トイレでの排泄を基本とし、随時の声掛けや誘導による支援が行われている。要介護4のおむつ使用の方が、リハビリパンツに替わり、トイレまで歩行出来るようになり、要介護2となった事例も見受けられるなど、積極的な自立支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動で便秘にならないように努めています。利用者様によっては便秘薬や坐薬を使用いただき防ぐようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めていませんが、週に2回～3回入浴出来るよう調整させて頂いています。失禁などで汚れてしまった場合は随時入浴していただいております。	曜日を決めずに、利用者の希望や状況により、週に2回～3回入浴していただけるよう支援をされており、必要に応じて2人体制での安全で安心な支援が行われている。入浴拒否の方には無理強いをせず、タイミングや職員を変えて対応され、入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂や玄関のソファで外を眺めながら過ごす方、居室でテレビや映画を鑑賞される方もいらっしゃいます。全員ご自宅で使用されていた馴染みのある寝具をお持ちになり利用されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服している薬の情報をファイルにまとめ職員全員閲覧出来るようにしています。薬に変化がある時は看護師が症状の変化について説明させて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は、落ち葉やドングリ拾い、花の手入れ等を手伝って頂いています。レクリエーションでは、カラオケ、書道などご自慢の腕を振るって頂けるよう支援させて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人内の敷地が広く自然に恵まれた環境であり、悪天候以外、散歩・外気浴などをされています。また近隣の方から花の開花情報を聞き感染予防対策を取りながらドライブを行うこともあります。	感染予防に注意をはらいつつ、自然に恵まれた広大な庭園で散歩をしたり、四季折々の花木を眺めたり、開花情報に合わせてお花見ドライブなどを楽しまれています。新緑の季節には庭で茶話会などが行われるなど、四季を通じて自然を感じられる環境が整っている。	感染予防に注意を払い、広大な庭園や周りの環境を活かして、自然とのふれあいを楽しまれています。今後の外出について、高齢化が進んだ方の外出がどうあるべきかを含めて、検討されることが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お小遣いは職員が管理していますが、ご家族の了承の基、ご本人が管理することも可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方には、手紙、年賀状を出す支援を行っています。電話を希望する場合は事務所の電話を使用したり、携帯電話を持たれる事も可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には季節に合った装飾をします。またレクリエーションで作成した習字、壁紙、催し物の時に撮影した写真等展示しています。法人内に咲いた花を食卓に飾ることもあります。	玄関やリビングは利用者の作品や季節を感じさせる貼り絵、書画や行事の時の写真などが飾られ、ベッドで休む方やタオルをたたむ手伝いをされる方、談笑される方などが、思いおmoiの場所で思いおmoiに過ごすことができる温かみのある場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やロビーの応接場にて、気の合った利用者様同士で過ごす方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望でテレビ、ラジオ、椅子等馴染みのある物を持ち込んで頂いています。	馴染みの家具や寝具、家族の写真、思い出の品、テレビ・ラジオなどが持ち込まれ、1人ひとりの生活を反映した居室が作られている。また、毎朝、掃除、換気、消毒が行われ、共有空間共々清潔に維持され、感染症対策もしっかり行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差をなくし、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し、安全を確保しています。そして利用者様の状況により自立した生活を目指し生活リハビリを意識した支援を行っています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームなごみの家

目標達成計画

作成日: 令和6年3月6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回以上の避難訓練に職員全員参加しているが、災害時は想定外の事態も考えられる。どのような場合でも安全な行動がとれるように訓練継続を通して気づきを職員で共有していく必要がある。	火災、地震、それぞれの注意すべき点を考え落ち着いて行動ができるよう訓練を継続する。	高齢者施設における災害時の避難事例について勉強会等を行い、事例にそった訓練を実施する。職員全員に感じた事、新たに気づいた点等の意見を聞き共有し、次の訓練に活かすよう取り組む。	6ヶ月
2	49	コロナウイルス感染症も5類へ移行され、外出を計画したいが、利用者様の自立度はそれぞれ異なり、以前のように全員で行なう事は難しくなっている。それぞれの方が安全・安楽に気分転換が出来る外出について考える必要がある。	外出により、利用者様全員が、それぞれ四季を感じられ、気分転換を行う事ができる。	天候を見て、季節の花等の見学を計画する。近隣の公園に行ける方、施設内を車椅子で散策される方、など個別に楽しめるよう計画する。感染予防対策を取りながら、菓子や飲み物等召し上がって頂く。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。